

## 会 議 録

会議の名称	第3期西東京市子ども読書活動推進計画策定懇談会第5回会議録
開催日時	平成27年11月11日（水） 午後2時から4時
開催場所	イングビル 第4会議室
出席者	宮川委員 服部委員 鈴木（綾）委員 倉内委員 尾関委員 堀委員 吉澤委員 今西委員 鈴木（壮）委員 大友委員 上岡委員 森委員 安中委員 事務局 奈良図書館長 北嶋柳沢図書館地域館長
議 題	1 第3期西東京市子ども読書活動推進計画 2 今後の日程確認について 3 その他
会議資料の名称	西東京市子ども読書活動推進計画策定懇談会第5回次第 第3期西東京市子ども読書活動推進計画策定懇談会第4回会議録
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
<p>●事務局 資料の確認。</p> <p>●座長 今日の内容だが、目次、これまでの取り組みと課題、計画の取り組みを書いていく。今までのフォーマットではなくて、文章形式に変更する。乳児期については、起草委員会で中身を検討したところであるが、他の方の意見を求めたい。また、小学校を対象にした取り組み、中高生を対象にした取り組みについても具体的に検討したいと思う。これまでの取り組みと課題で何かご意見、確認したいことがあったらお願いします。</p> <p>●A委員 4ページのところのこれまでの取組と課題の表だが、団体貸出が増え、個人貸出しが減っているといった内容だが、西東京市の人口増加についても言った方が分かりやすいのではないか。人口が減っているから個人の登録者が減っているとか、あるいは人口が関係ないのかどうかということを書いた方が親切ではないかと思う。</p> <p>●座長 人口はどのくらい変動しているのか。</p> <p>●事務局 人口は増えている。年代別に人口調査が出ている。</p> <p>●副座長 これについて保護者の意見を聞くと、図書館では一人30冊2週間借りられるので、学校に行っている子どもへ、図書館から親が代わりに借りてきてあげる時に、大人のカードで家族分借りられることも要因としてあると思う。</p> <p>●事務局 図書館の実績として25年度は貸出しが落ちている。 この表が必要ないという意見があれば削除はできるが、それはみなさんにお</p>	

	考えいただきたい。
●B委員	この表はあったほうが分かりやすいのではないかと思う。
●事務局	児童館と学童クラブは増えている。 学校ではアンケートとか統計とか、子どもの動向調査、読書調査のようなものを何か取ったのか。
●C委員	読書調査は年度による。
●D委員	今、ちょうど取っている最中で12月締め切りである。
●座長	他はいかがでしょう。
●D委員	7ページの(4)大人への啓発で、「保護者をはじめ子どもと身近に読書に関わる大人に対し、子どもの読書に関する学習の機会を提供し」ですが、具体的にこの後の年代別のところに関わってくるのかと思ったが、実際具体的には大人への学習機会の提供が具体的にあるのか、ちょっと読み取れなかった。学校等で大人に対して、そういう機会があるのかと疑問がある。
●座長	学校によってはある。
●副座長	私も地域の声がかかるが、子どもの本をテーマにした道徳授業地区公開講座を3回ぐらいやった。図書館で学習の機会というのは、いわゆる講演会だとしたら市民と協働したりして年1回はあるし、図書館は講座もやっている。学校ではPTAが主催で読み聞かせとかがある。
●座長	どの学校でもということはないが、自主的に学校ないしPTAでやっている機会はわりとある。
●副座長	計画が1期、2期、3期と進んできているので、3期は新たにこういうことを取り組みますというアピールをすべきだという認識があったが、新規とするにはちょっと重々しい。
●B委員	強調するとしたら学校図書館の側からすると重点という言葉の方が書きやすい。3期で今これ書いてくださいと言われると挙げられるものがないというのが正直なところである。ただ、これから先の5年間でこれを重点的にやりますよというような書き方にしていただければ、こちらでここに重点をおこうかというふうに意見集約していくことが出来ると思う。重点事業という言葉を使っただけでもいいが、どうか。
●座長	例えば乳幼児で読書環境の整備の重点事業は幼児向け講座を整備し、これは今までも何もないわけではない。
●E委員	何もないわけではないが、例えば、絨毯を取り替え、読み聞かせの絵本のコーナーを子どもたちが絵本を読むのに良い環境にするとかである。
●座長	新規というより重点ではないか。絵本パックの貸出しも全く初めてではないのか。
●E委員	これに関しては初めてである。
●座長	重点の施策に新規として少し強調するくらいの方がよいか。
●B委員	そうしていただけるといい。
●副座長	児童館とか保育園での第3期の取組みというのは何か。
●F委員	継続事業に書いてある。継続事業は重点にもなるわけだが、具体的に児童館は何をやると入れた方が良ければ相談してくる。
●副座長	私たちがここを話し合っていた時に、児童館も保育園もこのことを努力しているのをよく知っているが、図書館をもう少し使うとか、図書館との連携がもう少しあってよいと思う。児童館のことが専門なので、児童館の乳幼児講座は児童館の先生には難しい部分である。各館によって違うと思うが、そこにどういう本を基本的に配置すればいいとか、今どういう状態かとか、児童館の考えを書いてはどうか。図書館は図書館でそちらの部分膨らませて発展しているので、連携と言っても月に何回か会議をするということではなく

て、本を購入すると時に意見を聞くとか書架を見てもらって足りないものを入れてもらうとか、もし今までそういうことを出せていないのであれば、今回この機会にお互いの目標となっていいいのではないかと。

- F 委員 1 期のところでその意見は出したと思う。乳幼児に限らず図書の書架を見てもらう。
- 副座長 漫画を置かなければいけないとか、児童館ならではの事情があると思う。この重点事業の、読書環境の整備で、ピッコロひろばとか、支援センターが抜けている。
- E 委員 読書活動の継続事業の 1 読み聞かせのところに入れた。
- 副座長 このことではなく、環境整備、ピッコロひろばとかのどこかひろばの乳幼児の書架をぜひ図書館職員に見ていただきたい。基本書がない。前記、ここの部分が抜けていたから、団体貸出パックみたいなのを考えてほしいと確かおっしゃっていたので、それは第 3 期重点事業に入れて欲しい。
- B 委員 10 ページの児童サービス担当司書の養成のところだが、小学校、中学校では人材の育成活用は啓発のところとその項目を入れている。15 ページの継続事業の 3 はどちらに統一した方がいいか。内容的に児童サービス担当司書の養成は啓発のところか。
- 座長 環境整備かもしれない。置き場所は統一したほうがいい。人材のことは前のほうに仕立てておいた方がいい。
- B 委員 全体を読んで、他の部分と重なるところをいろいろと書きいれてしまった。読書指導の充実という中身に関しては学校の中で行っていることに焦点を当てて、施設などと協力している部分に関しては削除した方がいいのか。
- 座長 しなくていいと思う。小学生という時期についてのことを言っていると思うので、小学生というと図書館が中心になるかもしれないが、この時期はこういうこともあるということ、実際には乳幼児期と同じようなことだとしても小学生として書いておかないと、小学生は逆にないのかとなるので、同じことでも書いておいた方がいい。
- 事務局 文章の書き方は整理する。
- B 委員 端的に何をやるかという具体的なことを書いたが、小学校の部分で現状はこうであるということに関しては、どのように書いていいのか。
- 事務局 施策を書くのに必要であれば書いていただき、他とのバランスで統一する。
- 座長 これからやるべきことにアクセントをつけ、前のことを何も書かないと分からないのであれば、少し、アクセントをかけかえるだけでも違う。
- 副座長 先生がおっしゃった読み聞かせだとしても、図書館でやっていることと、学校で保護者が関わっていることと全然違うように思える。
- B 委員 所管課中に学校というのが入っても、図書館と学校とでやっているのとは違うということか。
- 副座長 読み聞かせボランティアにしても保護者にしても、学校の許可・依頼なくやっているはずはないので、学校の責任の中でやっているのが良いかと思う。前にも話していたが、啓発になるか。
- 事務局 小学校保護者による読み聞かせボランティア等、おはなしボランティアの協働の後に入れる。
- 副座長 おはなし会ボランティアは図書館でやっているという話である。
- 座長 読書活動の読書指導の充実の中に入ると思うが、この箇所は学校図書館の中で行われることが中心である。各教科の内容を発展させるのに必要な図書を整備し授業の内容との連携をクラスの先生や専科の先生と協働しながら、みたいなことがもう一言あると学校全体のシステムと図書館とのダイナミックな動きみたいなことが伺い知れるようになるのではないかとと思う。

- B委員 それに関してはまたちょっと文章を考えてみる。
- 座長 学校図書館は、学校の付設機関であるというよりはむしろ中心にあるようなイメージに今変えようとしているような気がする。さっき出てきた啓発の方に書いてある人材配置と人材活用についていろいろなことが含まれる。
- 事務局 学校で生きる力を育む等ついて指導要領になかったか。基礎学力のところ読書環境の部分は書かなくてよいか。
- D委員 例えば、11月は読書月間してくださいというのはある。
- 事務局 そのあたりは書いておいた方がいい。
- D委員 学校の読書指導の充実には繋がっているかと思う。
- B委員 今までの計画だと、11月に西東京市読書月間とするというのを読書指導の充実の中に入れていた。今回、いろいろなものをこの中に入れたので、この部分を割愛してしたが、入れることは問題なくできる。
- 副座長 親の立場からすると、読書月間は貴重で、本が嫌いで普段読まない子も読んでみたら面白かったということがあったりするので大事だ。  
15ページ継続事業の3の2段目の最後のところに、学校司書同士の連携を深めるためにも学校司書連絡会をの回数を増やすことが望まれますとあるが、新学校図書館法の改正に一番言われているのはここだが、研修機会を増やすよう努めますにされておいてはどうか。実際はどうなるかはともかく、現実には学校の校長先生のお考えがあるから難しいということもあるかもしれない。
- 事務局 調整していただいて、計画に載せるものを最終的にまとめていただきたい。
- G委員 質問だが、小学校の図書の時間は年間で何時間は最低ないとないといけないとか、決まりはないのか。
- B委員 規則はなく努力義務で、先生たちが時間割を調整して、これは国語に振替えようとか、時間を取っている。何か規定があるというわけではない。
- C委員 読書指導していないわけではないのだが、図書室に行って1時間読書をする時間を確保するということが規定されているわけではない。授業時間内にゆっくり図書室行って一緒に本読む時間が必ず確保できるかということではないと思う。学年にもよるが、高学年になればなるほど授業実数の関係上難しくなる。
- 副座長 経験的に高学年はどうか。
- G委員 図書の時間はほとんどない。
- 副座長 高学年になると調べ学習が割と多いと思うが。
- C委員 読書だけでなく調べ学習があるので、本と関わらない、図書室を利用しないということではないが、授業時間内を使ってゆったり読書する時間というよりは調べ学習をするほうが増えていると思う。
- 座長 1・2・4の区分けだが、啓発の中に入っている学校図書館の利用の充実のための人材活用、これは2の読書活動の中でもいいのと、読書活動の最後の情報の提供は啓発の情報提供と一緒にできないかなど整理する必要がある。中高生世代に移る。中学生、高校生、YAの部分の整理は必要ではないか。YA世代と言っているところに何か一言入れるか、見出しのところに、中高生の後にカッコ書きでYA世代と入れるとわかりやすいかもしれない。
- 副座長 これは毎回後ろに「注」が付くのか。
- E委員 用語解説をつける。
- 座長 小学生、中学、高校と学校的な言い方であるが、図書館はYAと少し言い方の角度が違う。例えば高校に行っていないという子もいるので、YAという言葉で図書館は考えていく。
- B委員 ブックフェスティバルは元々あった合同書評会が変わったもので、今年やっ

	てみようということでブックフェスティバルとしてやったと聞いた。
●事務局	今年で2回目である。
●B委員	今回はブックフェスティバルという単語を使わずに合同書評会という言葉を使っている。
●副座長	ここでいう合同書評会は何校かが集まってということか。
●C委員	ずっとやってきた。
●事務局	朝読書や業間読書などで読書を習慣化するとあるが、合同書評会も読書の習慣化が目的になるのか。
●C委員	これはたぶん違う。
●副座長	ひとつ独立させたい。本市は図書館でもまだビブリオバトル的なこともないし、子どもたちが本について語りあう場というのは新鮮な機会だと思うので、ひとつの点で独立させていただくといいかと思う。
●座長	読書活動の中に入っている職場体験、一日図書館員とか情報提供、啓発のような気もする。啓発でも学校図書館利用の充実のための人的配置が読書活動のような気がするが、これも啓発なのではないか。
●E委員	読書意欲ということでこちらに入れたが、一日図書館員や13ページの小学校向けの事業の企画も啓発になるか。
●座長	これも啓発である。
●副座長	子どもたちに読み聞かせをすすめたりする活動であって、啓発と言えば地域とか大人とかそういう括りかと思っていた。子どもへの啓発と言えば全部活動になる。
●座長	子ども自身にではなくて地域や家庭への啓発ということにするか。
●副座長	YAといっても中学生くらいだったら親御さんが関わる。そうしておいた方がいいのかなと思う。他の市のを読んでいてもそう思う。
●座長	ではそういう考えでいい。人材の事が啓発に入っていることに違和感がある。人材は読書環境ないし読書活動の背景だからどちらかではないか。YAの部分で他に何かあるか。
●事務局	15ページの最後のところは学校司書が教員の認識を高めるということか。
●座長	これは教員になりかわって言っている事ではないか。
●C委員	教員自身も高めると思うのでおかしくはないと思うし、理想だと思う。
●事務局	前の箇所で中心になって取り組むとあり、ここも必要か。
●座長	この前半はむしろいわゆる読書活動とか子どもたちに働きかける内容だから読書活動で、後半は子どもに関わる教員の話だから後半は啓発なのかと思うが、その啓発するのは誰が啓発するのか。
●C委員	誰が啓発するのかということではなく、それぞれの教員が行う。ただ中心となるのは司書教諭かと思う。司書教諭が学校の先生に啓発していくことによって、各先生のスキルが上がる、認識が高まるなど効果があるのかと思う。
●座長	司書教諭がその学校の教員を啓発して認識を高め、結果としてお勧めの本のリストなどが発行されるようになるという話か。ちょっとそこは別の形で、別の角度で点にしたいと思う。おすすめの本のリストというのは実際にはどんなふうに、その先生方からどの程度出ているのか。
●C委員	全学校にあるわけではないので難しいが、例えばうちの学校では、今年度初めて、読書旬間と読書月間に各先生のおすすめの本を短く紹介し掲示したりリスト化したりしている。学校によっては先生方がお勧めの本をリストにして課題図書になっている学校もあると思う。
●座長	様々なレベルのお勧めの本がありうるということであるが、むしろいいと思う。だからお勧めの本のリストという様々なレベルで、学校全体とかクラスや学年とか何か子どもたちに読書の推進を行うことを言っていたかと思う

が、それこそ学級通信を出している先生が隅っこにこの本面白いよ、なんて書くということだってあるだろう。

●E委員 もう一度確認したい。それぞれ乳幼児と小学生と中学生と分けて、読書環境の整備と読書活動と啓発と分け、その中で、3期の重点事業と継続になっているのをこのままでいくということによいか。

●座長 重点事業の中で過去になくて本当に新しいものを新たに分かるように入れておく。

次回は12月9日。